



OITA UNIVERSITY

大分大学
研究マネジメント機構
産学官連携推進センター

NEWS
2022

(2021年10月~2022年3月)

Vol.11

Center for Innovation and Partnership Institute for Research Management

産学官連携推進センターNEWS2022の発行にあたって



研究マネジメント機構長
理事（研究、社会連携、産学連携担当）
副学長 山岡 吉生

令和3年10月1日に、「研究マネジメント機構」が設置されました。組織改編により、産学官連携推進機構と全学研究推進機構が統合してできたもので、産学官連携推進機構は、産学官連携推進センターとして生まれ変わりました。一方、全学研究推進機構は、研究推進センターと研究支援センターからなっています。

さて、もともとの産学官連携推進機構は、大学憲章に掲げる社会貢献の目標の実現に向けて、平成23年4月1日に旧イノベーション機構を改組し、産学官連携部門及び知的財産部門の2部門からなる組織として発足したものです。センターと名前は変わりましたが、やはり「産学官連携部門」と「知的財産管理部門」からなりますので、基本的な業務内容は大きくは変わりません。

「産学官連携部門」は、産学官連携及び地域連携に係る共同研究・受託研究の推進と人材の育成、地域産業における新しい技術シーズの創出、ベンチャー精神に富む創造的人材の育成などの業務を行っています。一方、「知的財産管理部門」では、知的財産の創出、権利化、管理、活用に関する支援、技術移転、起業相談などの業務を行っています。この2つの部門には、それぞれ専任教員を配置するとともに、産学官連携部門に産学官連携コーディネーターを配置し、共同研究や業務委託等、企業や自治体との連携に関する企画・調整、技術相談、技術移転支援など、学内外との連携業務に対するワンストップ・サービスを提供しています。

産学官連携を推進する上で最も重要なことは共同研究の進展であり、「研究マネジメント機構」として包括してみていくことができることは大きな強みと考えています。私たちは常に最新の情報を躊躇なく取り入れ、新しい産学官連携活動モデルを模索し、検証しつつ前進していきたいと考えております。

この「産学官連携推進センターNEWS2022」は、産学官連携推進センターが行っている活動等を紹介しておりますので、ぜひご一読いただき、本センターの活動にご理解をいただき、引き続き皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月



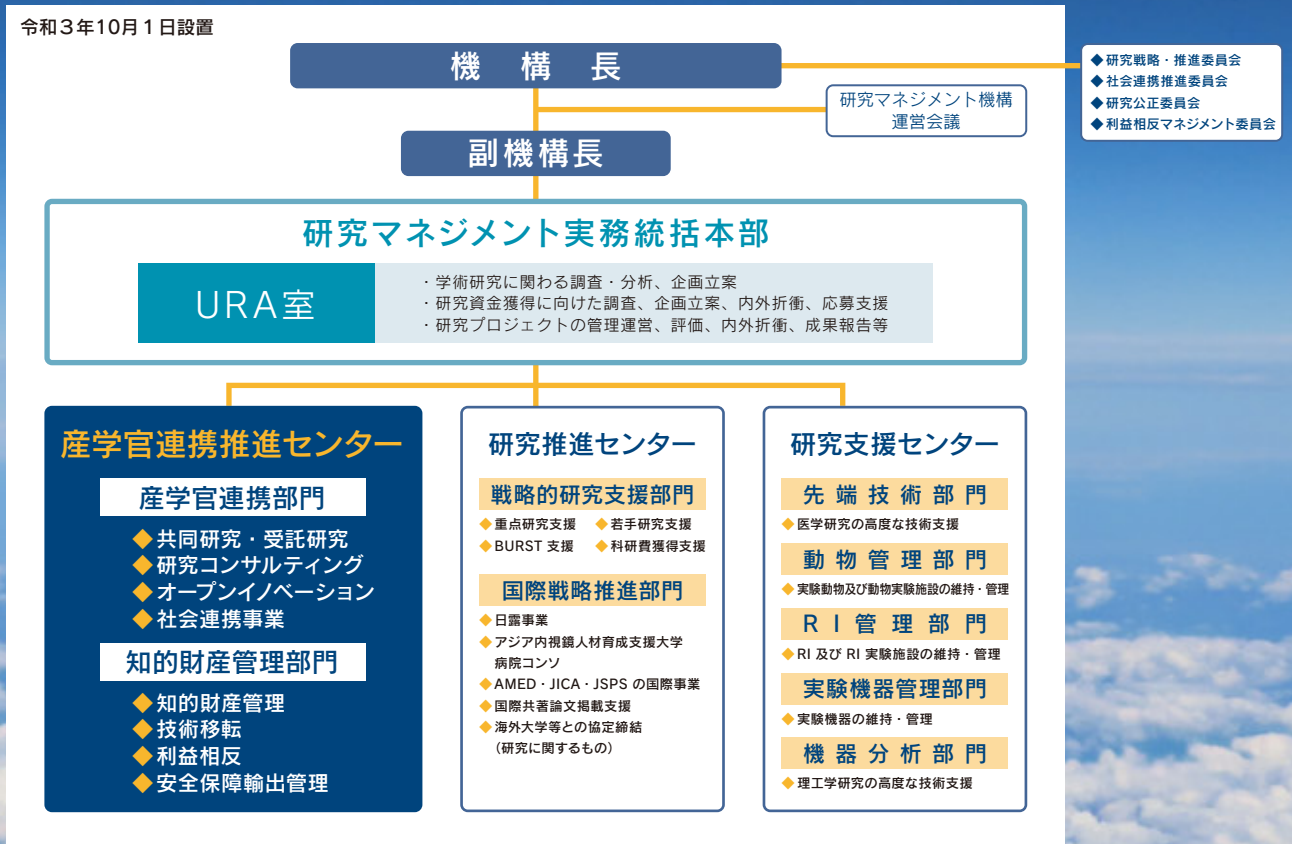
Contents

- 産学官連携推進センター
- NEWS の発行にあたって 1
- 部門長紹介 3
- 産学官連携の制度 4
- 産学官連携実績 5
- 事業活動状況 6 ~ 7
- 研究成果トピックス 8 ~ 10
- あとがき 10

組織改編により

産学官連携推進機構と全学研究推進機構を統合し

令和3年10月1日に「**研究マネジメント機構**」を設置



改編





産学官連携推進センター一部門長紹介



知的財産管理部門
部門長（教授）

松下 幸之助

MATSUSHITA Kounosuke

令和2年12月1日着任



知的財産の利活用、
科学技術・イノベーション政策、
給排水設備学、プロセス工学

- 1986年 九州大学 工学部 化学機械工学科 卒業
- 2002年 新潟大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程 修了
- 1986年 TOTO株式会社にて研究開発を担当
水電商品開発部長→総合研究所 主席研究員を歴任
- 2015年 内閣府に入府。政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官補佐
政策参与として国家的に重要な研究開発プロジェクトの評価を担当
- 2017年 国立大学法人島根大学産学連携センター知的財産総括部門長・教授
- 2018年～現在 最高裁判所専門員
- 2020年 国立大学法人大分大学 産学官連携推進機構 知的財産部門 部門長・教授
- 2021年10月～現在 国立大学法人大分大学 研究マネジメント機構 産学官連携推進センター 知的財産管理部門 部門長・教授

知的財産管理部門のミッションは、知的財産の創造と活用の2つです。知的財産の創造の面では、大分大学がイノベーションに繋がる知的財産を継続的に生み出すための研修を実施しました。実際に共同研究や受託研究を行う教員、あるいは、知的財産の権利化を希望する教員に対しては伴走支援により、OJTによる教育を進めました。また、学生が生み出す知的財産による起業などのケースを想定して学生の権利を守るための教育と仕組みの整備を行いました。知的財産の活用の面では、大分大学発ベンチャー“大分CELEENA”の立上げに際し、竹セルロースナノファイバービジネスのロケットスタートを実現すべく全力支援を行いました。これらの活動の結果、教職員の知的財産に対するリテラシーは向上し、企業の皆さまとのコラボレーションを円滑に進めることができる環境が整いました。是非とも、イノベーションを具体化するシーンで大分大学をご活用ください。



産学官連携部門
部門長（准教授）

小川 領一

OGAWA Ryoichi

令和3年4月1日着任



廃棄物管理、環境政策
開発学、国際協力

- 1995年 英国マンチェスター工科大学 大学院（現マンチェスター大学） 開発プロジェクトマネジメントコース修了
- 2008年 鹿児島大学大学院 人文社会科学部 地域政策科学専攻 博士後期課程修了
- 1996年 株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナル コンサルティング事業部 環境部
- 2000年 国際航業株式会社 海外事業部 都市環境部 有限会社ラーバンデザインズ 取締役
- 2004年 国立大学法人鹿児島大学大学院 人文社会科学部 専攻 専任教授
- 2017年 有限会社ラーバンデザインズ 取締役
- 2021年 国立大学法人大分大学 産学官連携推進機構 産学官連携推進部門 部門長 准教授
- 2021年10月～現在 国立大学法人大分大学 研究マネジメント機構 産学官連携推進センター 産学官連携部門 部門長・准教授

「敷居がなんとなく高いんだよね」

私が着任したのは2021年4月。コロナの感染者数が少なくなった頃を見計らって、企業訪問を開始しました。その時、ご対応いただいた担当者からこのような声を何度も頂戴しました。コロナのまん延で人と人のつながりが疎遠になっていく中、企業と大学の関係も疎遠になり、敷居が高くなったのだろうか、とも考えましたが、どうもそうではなさそうです。

大分大学には産学交流振興会があります。その発足は平成8年。54社で始まりました。その多くが地域の企業で構成されています。以後、会員企業数のピークは62社となったものの、現在31社となっています。この減少傾向は、コロナのまん延とは関係がありません。地域の企業にとって敷居が高い大分大学とはどのような存在なのでしょう。

大分大学は今年10月、産学官連携ポリシーを策定しました。そのなかで「地域拠点大学として、地域企業や地方自治体等との連携・交流を図り、地域の課題解決に繋がる取組を実施し、地域貢献を推進します」としています。そこで、産・学・官のコミュニティを作ります。ここでのコミュニティとは、異なる組織や環境の人同士が「敷居」を感じることなく交流できる場を指します。

それぞれの立場から様々な課題について自由に議論し、解決に至るプロセスを見出す「場」、そんなコミュニティで皆さまとお目にかかれるのを楽しみにしています。



研究相談・共同研究・受託研究について



▶ 研究相談

企業等の技術的課題や将来の開発課題の相談を受けるために設置しています。企業経験を持ったコーディネーターが専門分野の教員を探します。

技術の相談・お問い合わせは、大分大学ホームページ→地域・産学官連携→産学官連携推進センター→技術のご相談・お問合せの中にあります。



▶ 共同研究

本学の研究者と企業等が企業等の技術的課題や将来の開発課題について共同して研究を行い、優れた研究成果を上げてお互いの発展を目指す制度です。この制度は、大学と企業等が相互に研究者、研究経費、研究設備等を出し合い研究を進めます。共同研究申込書は、上記ホームページの研究開発までの流れからダウンロード願います。

▶ 受託研究

企業等が本学に対して研究を委託する制度です。企業等が負担する経費で本学が研究を行い、優れた研究成果を上げてお互いの発展を目指す制度です。受託研究申込書は、上記ホームページの研究開発までの流れからダウンロード願います。



共同・受託研究の一般的な流れ



- ◆ 研究申込み受付
- ◆ 研究契約書の締結
- ◆ 研究費の受入

学内申込手続き



- ◆ 研究の開始
- ◆ 中間報告
- ◆ 最終報告

研究期間（半年～数年）

★各様式については、大学のホームページをご覧ください。



大分大学・研究コンサルティング制度の概要



研究コンサルティング制度とは

大分大学では、企業等からの相談に対し、教員の学術的な専門知識に基づく助言サービス「研究コンサルティング制度」を行っています。このサービスは、企業等に経費を負担いただきながら、課題解決の糸口を見つけるお手伝いをします。

以下のようなケースを想定しております。

- ▶ 機械・装置・製品を改良したい
- ▶ 製品、製造等における技術上のトラブルを解決したい
- ▶ 新技術・新製品を開発したい
- ▶ 技術的実現の可能性を相談したい
- ▶ お困りごとに対して解決の糸口を見つけたい
- ▶ まずは専門知識に基づく助言指導が欲しい etc…

是非、
研究コンサルティング制度
をご利用ください

研究コンサルティングの流れ



1 共同・受託研究受入実績

令和3年度の共同・受託研究受入総額および受入総件数は617,991千円と273件であり、前年度より受入金額・件数ともに増加となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済活動縮小も徐々に回復してきていると考えられます。内訳を見ると、前年度と比べて受託研究は受入額・件数は増加していますが、共同研究については受入額・件数ともに減少しています。

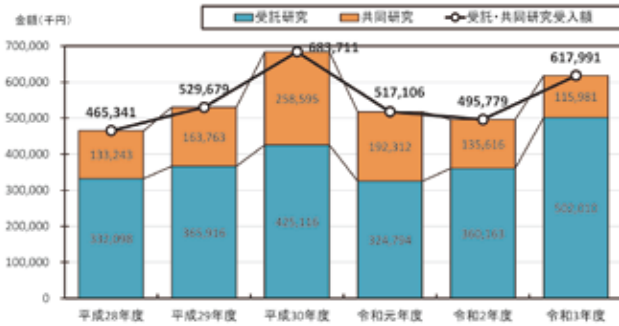


図1 共同・受託研究受入金額

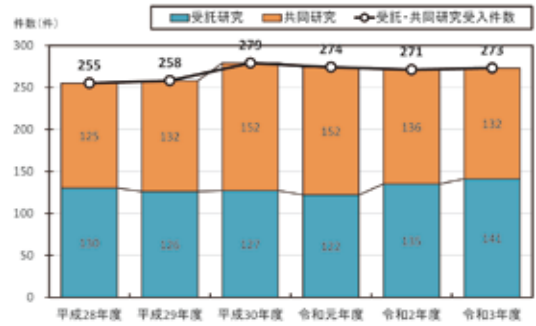


図2 共同・受託研究受入件数

2 共同研究受入実績 (大分県内外)

共同研究実績額・件数は前年度より減少し、115,981千円と132件となりました。共同研究実績件数は前年度と同程度ですが実績額は15%程度減少しており、1件当たりの研究費は100万円を下回る結果となっています。

県内の共同研究については、実績件数・金額ともに減少しており、これまで以上に県内企業との連携強化に努めてまいります。

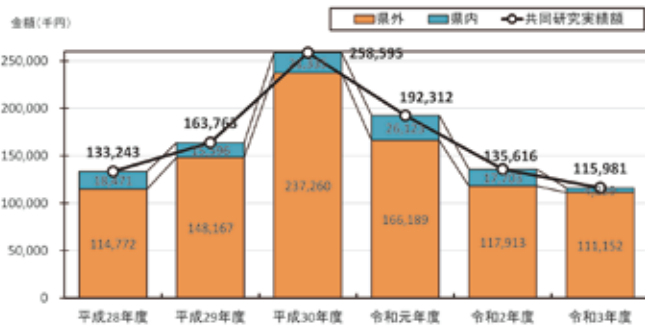


図3 共同研究実績額 (大分県内外)

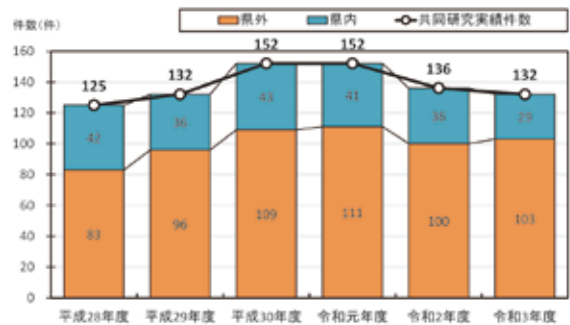


図4 共同研究件数 (大分県内外)

3 特許出願状況等 ()の数字は共有件数を示す ※実用新案1件を含む

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
発明届出件数	27	23	18	16	18
特許出願件数 (国内)	22(13)	24(13)	24(13)	7(3)	14(9)※
特許出願件数 (外国)	17(16)	8(8)	10(6)	7(7)	7(7)
審査請求件数 (国内)	14(5)	25(14)	18(11)	15(6)	15(8)
審査請求件数 (外国)	3(2)	3(3)	3(2)	4(2)	5(5)
保有件数 (国内)	108(42)	114(45)	118(47)	122(50)	118(52)※
保有件数 (外国)	13(8)	19(13)	23(18)	29(25)	31(28)

4 技術移転状況

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
譲渡権利数	2	2	7	3	6
新規ライセンス契約数	1	1	1	4	1
有効ライセンス契約数	8	9	10	14	15

新技術説明会

事業名 ライフサイエンス新技術説明会

開催日時 令和3年9月28日
(場所) (オンライン開催)

主催 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)、琉球大学、鹿児島大学、宮崎大学、山口大学、佐賀大学、大分大学、鹿屋体育大学、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、北九州市立大学

概要 全体で11テーマを発表。
本学からは1名の医学部教員が発表し、参加者は251名であった。

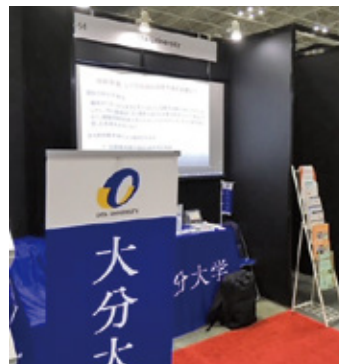
令和3年度(令和3年10月～令和4年3月31日)

1 イベント等への出展

大分大学の各教員の研究成果を公表し、共同研究に繋げることを目的に、国内の様々なイベント等に出展を行った。令和3年度は、以下のイベントに出展した。

イベント名/開催場所	開催日	イベントの概要等
おおた研究・開発フェア (オンライン開催)	令和3年10月7日 ～10月8日	大田区のみならず国内外の優秀な技術や研究成果を発表することにより、技術イノベーションに繋げることを目的に開催。 理工学部 本田講師が出展した。
展示者	出展内容・タイトル	
理工学部創生工学科 機械コース講師 本田 拓朗	◆親水性エラストマーからなる低摩擦シールによる水中機器の効率化	

イベント名/開催場所	開催日	イベントの概要等
BioJapan2021 (パシフィコ横浜)	令和3年10月13日 ～10月15日	バイオビジネスにおけるアジア最大のパートナーリングイベント。神経生理学講座 花田教授、微生物学講座 伊波英克准教授、分子病理学講座塚本善之助教が出展した。
展示者	出展内容・タイトル	
医学部 神経生理学講座教授 花田 礼子	◆ATP・ADO 動態可視化ゼブラフィッシュを用いた NAFLD/NASH の薬剤スクリーニング ◆PTSD モデルマウスを用いたストレス関連疾患に対する薬剤スクリーニング	
医学部 微生物学講座准教授(グローバル感染症研究センター) 伊波 英克	プレジジョン・メディシンによる成人T細胞白血病発症リスクの新規診断技術開発	
医学部 分子病理学講座助教 塚本 善之	がんバイオマーカー研究の実用化へ向けた取り組みーシスプラチンの抗悪性腫瘍効果を予測する方法の開発	



BioJapan2021
の様子

2 研究シーズ発信の強化

研究シーズにマッチングしやすくするように、研究シーズの紹介動画を撮影し、大分大学研究マネジメント機構産学官連携推進センターのホームページで公開している。更に、来年度も紹介動画を増やし研究シーズの発信を強化します。

URL <https://www.ico.oita-u.ac.jp/>

作成した紹介動画は下記のとおり

- ◆教育学部大学院教育学研究科教職開発専攻(専門職学位課程) [教職大学院] 教授 竹中 真希子
- ◆教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育コース 准教授 川田 菜穂子
- ◆経済学部地域システム学科教授 大呂 興平
- ◆経済学部社会イノベーション学科教授 渡邊 博子
- ◆経済学部社会イノベーション学科教授 河野 憲嗣
- ◆医学部医学科神経生理学講座教授 花田 礼子
- ◆医学部医学科細胞生物学講座教授 花田 俊勝
- ◆医学部医学科医学生物学講座教授 松浦 恵子
- ◆医学部医学科小児外科学講座大分子ども急性救急疾患学部門 医療・研究事業(小児科) 教授 末延 聡一

- ◆医学部医学科消化器内科学講座教授 村上 和成
- ◆医学部医学科消化器・小児外科学講座教授 猪股 雅史
- ◆医学部医学科心臓血管外科学講座教授 宮本 伸二
- ◆医学部看護学科基盤看護学講座教授 原田 千鶴
- ◆理工学部創生工学科機械コース教授 濱川 洋充
- ◆理工学部共創理工学科自然科学コース准教授 西垣 肇
- ◆理工学部共創理工学科応用化学コース准教授 原田 拓典
- ◆福祉健康科学部福祉健康科学科理学療法コース教授 河上 敬介
- ◆福祉健康科学部福祉健康科学科社会福祉実践コース教授 上白木 悦子
- ◆福祉健康科学部福祉健康科学科社会福祉実践コース准教授 三好 禎之
- ◆福祉健康科学部福祉健康科学科心理学コース教授 飯田 法子

3 産学交流会 宇佐市産学交流会

令和3年11月5日(金)に、宇佐市ホテルリバーサイドにて、「宇佐産学地域創生フォーラム」を開催した。

本フォーラムは宇佐商工会議所と大分大学の共催で開催しており、宇佐市の行政・企業・会議所関係者や大分大学の関係者62名が参加した。

主催者である宇佐市商工会建設工業部会の神幸二郎部会長、及び山岡吉生大分大学理事・研究マネジメント機構長の挨拶の後、是永修治宇佐市長から挨拶があった。来賓の紹介を行った後、来賓を代表して宇佐市議会衛藤博幸議長から挨拶があった。

続いて、以下のとおり、基調講演が行われた。

演題	講演者
大分県のDX推進について	大分県 商工観光労働部 DX推進課長 藤井 正直 氏
STEAM教育で拓くおおいたの未来 ～思いつく力・やってみる力・紐解く力～	大分大学 大学院教育学研究科 教授 竹中 真希子



また、基調講演終了後、大分大学研究マネジメント機構産学官連携推進センター小田和広センター長から、全学研究推進機構と産学官連携推進機構が統合した研究マネジメント機構の設立についての説明、及び産学官連携推進センターの活動報告を行った。

最後に、宇佐市立地企業振興協議会関川俊彦会長から挨拶があり、閉会した。

4 おおいた産学官交流合同シンポジウム

令和3年11月26日(金)に、オンライン開催にて「おおいた産学交流合同シンポジウム」を開催した。

本交流会は、大分の産学の技術交流を深めることを目的とし、今年度は、基調講演・大学によるグッドプラクティス事例紹介・パネルディスカッションが行われた。(参加者数:135名)



【基調講演・グッドプラクティス事例紹介】

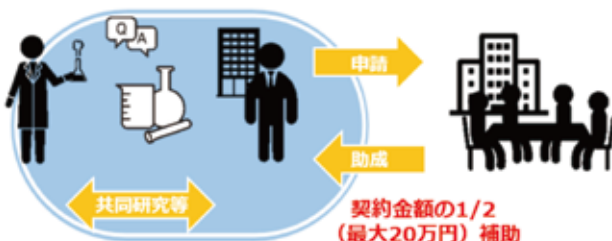
演題	講演者・発表者
ウニ畜養で地域経済活性化、漁業者支援、環境安全を実現する世界初の循環型ビジネス	株式会社大分うにファーム 代表取締役社長 栗林 正秀 氏
『竹田空き地戦略本部』プロジェクト	大分大学理工学部創生工学科建築学コース 柴田 建 准教授
止水プラグの研究開発	日本文理大学工学部建築学科 池畑 義人 教授
大学と駅と地域デザイン	別府大学文学部国際言語・文化学科 安松 みゆき 教授
『看護』の視点をものづくりに活かす取り組み	大分県立看護科学大学助産学研究室 樋口 幸 准教授

【パネルディスカッション】

- テーマ おおいた地域との産学官連携のあり方
- ファシリテータ 大分工業高等専門学校地域共創テクノセンター長 尾形 公一郎 教授

演題	パネリスト
高専の産学官連携活動	大分工業高等専門学校 地域共創テクノセンター 笠間 俊次 教授
別府大学の地域連携活動について	別府大学文学部長・地域連携推進センター長 西村 靖史 教授
コメンテーター	
株式会社オーイーシー 上席執行役員 DX推進事業部長 野崎 浩司 氏	
三和酒類株式会社サポート本部広報社会連携室チーフ 相良 恒太郎 氏	
大分大学研究マネジメント機構副機構長 小田 和広 教授	
大分市企画部企画課参事補 足立 威士 氏	

5 大分大学産学交流振興会「連携推進補助事業」



大分大学産学交流振興会は、会員企業と大分大学の連携強化、会員企業の課題を解決することを目的に、会員企業と大分大学で実施する共同研究等について、契約金額の1/2(最大20万円)を補助しています。研究テーマは、半年から1年程度で一定の成果が見込める共同研究等で、分野は問いません。2022年度は2件の補助を行っています。引き続き、案件を募集しております。詳細はセンターのホームページをご覧ください。お問い合わせください。



医学部
消化器・小児外科学講座

教授 **猪股 雅史**

基本情報

当講座の未来医療研究室 (J-SUMMIT) とは

外科医療や癌治療の未来の課題に応えるべく、「新たな学問領域の開拓」と「産学官連携を基軸としたイノベーション創出」に取り組んでいます。特に人工知能を活用した先端医療機器開発においては、世界の知をリードする研究拠点として、日本医療研究開発機構/経済産業省から支援を受けており、多くの大学院生を迎え入れ、開発研究を担う人材育成にも力を注いでいます。興味のある方は、いつでもお気軽にお声かけください。

研究内容

ICTや人工知能、情報ネットワークなどデジタルトランスフォーメーションの先端技術を駆使し、「からだに優しい手術」、「手術画像シミュレーションソフト開発」、「遠隔手術システム」など、外科医療の質の向上を実現しうる開発研究に取り組んでいます。またグローバル企業との共同・受託研究や県内企業とのクロスアポイントメント、寄附講座開設、大学間協定による医理工連携など産学官連携をフル活用し、要素研究を進展させ、特許取得およびトップジャーナルへの掲載を経て、事業化および社会実装を実現しています。

この5年間の研究成果の中で、事業化を実現した活動を紹介します。



未来医療研究室 (Team: J-SUMMIT) の研究風景

1 抗がん剤脱毛予防剤

開発商品：メディアルファ® 2018年上市
アデランス (株) と共同研究 (特許第5578997号)
用途：抗がん剤脱毛を予防 2022年7月より医学部内に寄附講座を設置



2 内視鏡用粘膜下注入材

開発商品：リフタル®K 2019年上市
カイゲンファーマ (株) と共同開発 (特許第6099044号)
用途：早期消化管癌の内視鏡治療をより安全に実施



3 大腸カバードステント

開発商品：JABARAステント® 2019年上市
SB川澄化学工業 (株) と共同開発 (2019年グッドデザイン賞受賞)
大腸癌による腸管閉塞に対する内視鏡的管腔内拡張機器



SB川澄 JABARA大腸ステント

4 人工知能搭載内視鏡手術システム

現在PMDAとの薬事・保険収載協議中
オリンパス株式会社・福岡工業大学との共同開発 (特許第7127785号)
世界初のAI搭載内視鏡手術システムとして、内視鏡手術の安全性向上



AI搭載内視鏡手術システム

5 その他の現在進行中の産学連携活動

デンケン (株) : ピロリ菌光線照射装置 (クロスアポイントメント、特開2017-164223)
富士フィルム (株) : 内視鏡的酸素飽和度測定装置 (共同研究、保険収載協議中)
東郷メディキット: 手術用CVカテーテル装置 (共同研究) (特開2018-143667)

事業化を実現の開発医療機器・医薬品



理工学部
福祉メカトロニクスコース

講師 加藤 秀行



研究内容

脳の仕組みを解明

ヒトに限らず生物は脳でさまざまな情報を処理し、ものごとを記憶したり、考えたり、判断したりします。コンピュータとは異なり、脳は環境や状況に合わせて非常に柔軟にこれらを行っています。しかし、脳がどのようにして、これらを実現しているのかは未だにわかっていません。もし、脳の情報処理の仕組みがわかれば、脳を真似て作られた最近何かと話題のAIやこれまでのコンピュータとは全く原理の異なる脳型コンピュータの開発をさらに発展させることができます。当研究室では、このように謎に包まれた脳の仕組みを数学や物理を用いて明らかにしようとする研究に取り組んでいます。

主な研究テーマとしては以下の通りです。

神経活動の数理モデルの構築

研究室では実際に神経細胞が発するスパイクと呼ばれる電気信号の生成をよりリアルに再現するスパイクング神経ネットワークによる脳神経活動のモデリングに取り組んでいます。この研究は、神経細胞やその繋ぎ目のシナプスをはじめとする脳の様々な要素を数式化し、それらを組み合わせ、神経のネットワークを数式で表現し、これを計算機上に構築し、神経活動を再現するというものです。

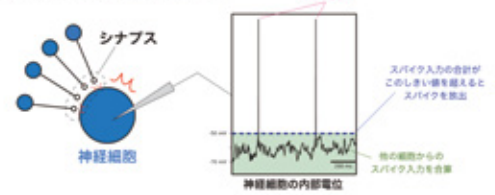
リザーバー・コンピューティング

現在主流のAI（深層学習）と比較し、非常に少ない学習データと学習コストで済みリザーバー・コンピューティングの精度向上や応用に取り組んでいます。これらの技術はスマートフォンやスマートウォッチ、家電などのエッジデバイスに適しています。最近では他大学の先生との共同研究で、実際の神経細胞を使ったリザーバー・コンピューティングの開発などにもチャレンジしています。

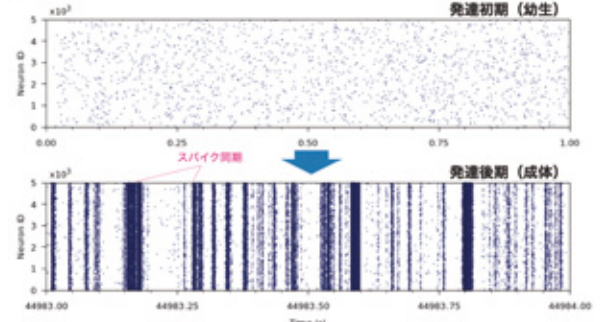
複雑な同期現象のデータからの検出

システムが情報を伝達するためには同期が必要だと考えられています。そのため、さまざまなシステムにおける情報の流れなどを知るには、システムの同期を検出する必要がありますが、一見すると同期しているようには見えなくても同期している場合があります。このような同期をデータから検出する方法を開発しています。

(a) 神経細胞、シナプスとスパイク

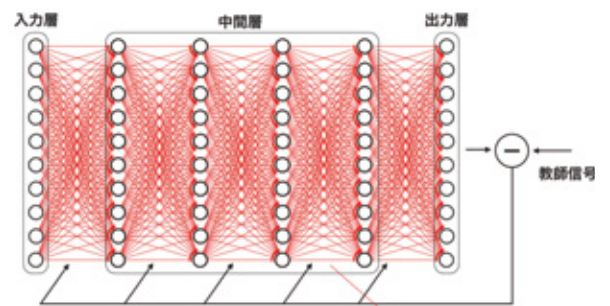


(b) シミュレーションによって得られた神経活動（各点がスパイク）

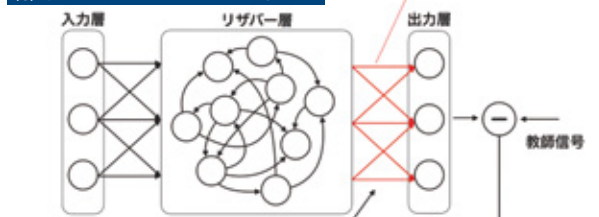


(a) 神経細胞、シナプスとスパイクの概要。(b) 神経ネットワーク発達のシミュレーション結果。スパイク同期が生じることでより情報が伝わりやすくなる。

(a) 深層学習

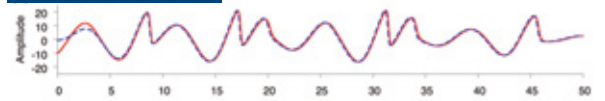


(b) リザーバー・コンピューティング

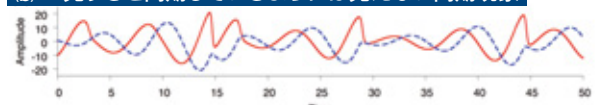


深層学習とリザーバー・コンピューティングの違い

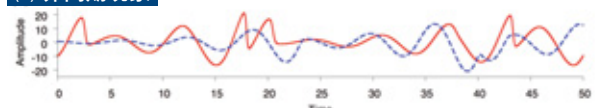
(a) 一般的な同期現象



(b) 一見すると同期しているようには見えない同期現象



(c) 非同期現象



同期現象と非同期現象の例



受賞情報

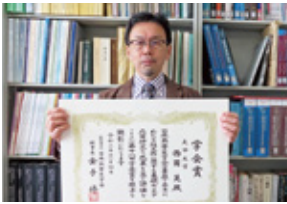
医学部西園教授が2021年度日本熱帯医学会賞を受賞しました



授賞式の様子



受賞記念講演の様子



賞状を手にする西園教授



学会賞 賞状

医学部微生物学講座の西園晃教授が、2021年度日本熱帯医学会賞を受賞しました。コロナ禍のため、オンライン開催となりましたが、令和3年11月4日に開催された総会にて学会賞の授賞式および受賞講演が行われました。この賞は熱帯医学における基礎または応用研究において顕著な成果を挙げ、その貢献が著しいと認められる研究者を表彰するものです。

西園教授は、永年にわたり狂犬病ウイルス感染時の免疫応答と病態の解明、治療法の研究に携わっており、国内にある医学部において狂犬病研究を行う唯一の講座としてその独自性を生かし、ウイルス学的側面からだけではなく、疫学的重要性さらには予防・治療へ向けた臨床的側面までも包含した総合的研究を展開しています。

また、近年では、これらの知見を生かし、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) により、フィリピンにおける狂犬病根絶に向けた感染症制御能力の強化を目指すプロジェクトを実施中です。

教育学部都甲准教授がお茶の水女子大学賞第6回辻村みちよ賞を受賞しました

教育学部の都甲由紀子准教授が第6回辻村みちよ賞を受賞し、令和4年2月15日にオンラインで授賞式が行われました。

この賞は、お茶の水女子大学卒業後数多くの女子学生を育て茶の成分について長年にわたって優れた研究を行い日本初の女性農学博士として活躍した辻村みちよ博士の功績を称え、家政学・生活科学の諸分野において顕著な業績を挙げた女性を顕彰することを目的として設立された賞です。

都甲准教授は、「天然色素の染色研究と被服学に関する家庭科の教材開発」の業績において表彰されました。家政学・生活科学を中心に据えた視点に立ち、天然染料による染色が、人間生活へどのように関わり貢献しているかについても探究しているという点に特徴があります。ブータン王国における天然染色の研究内容を小中高の家庭科衣生活分野の教材開発や教育プログラム (JSPSひらめき☆ときめきサイエンス等) の継続的な実施に役立てています。九州で育つ動植物由来の天然色素による染色研究とその教育実践への応用にも取り組んでいます。



佐々木孝子学長から賞状授与



受賞した都甲准教授

あとがき

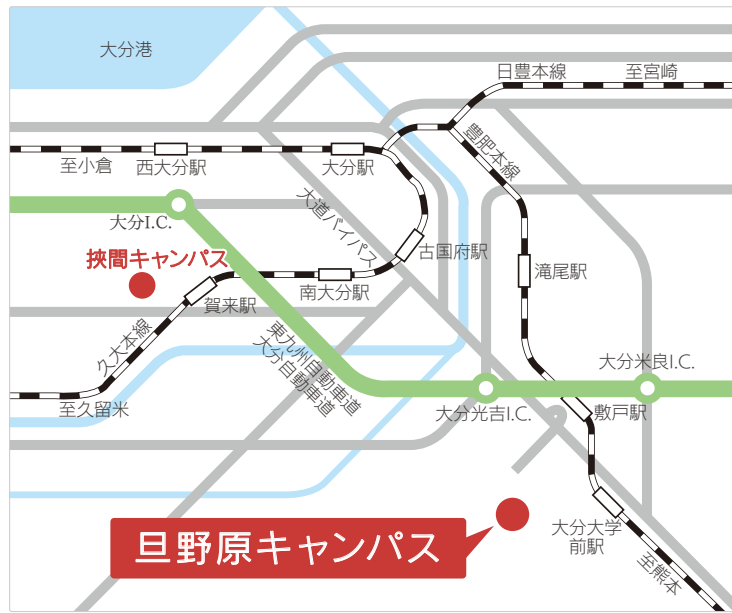
研究マネジメント機構 副機構長
教授 小田 和広

冒頭の機構長あいさつで述べましたように、昨年10月の機構再編成に伴い、本号より「産学官連携推進センター NEWS」として発刊することとなりました。このNEWSは、本センターの産学連携の取組みを記録として残すとともに、本学研究者のイノベーションを示す資料でもあります。研究マネジメント機構発足後、半年の活動となりますが、共同研究・受託研究等のデータは、昨年1年間データを取りまとめしています。昨年度は第3期中期目標の最終年度にあたり、本年より第4期中期目標の活動となります。第3期までの成果に基づいて、今後もより一層産学官連携が発展するよう、努力して参ります。

さて、新型コロナウイルス感染症についてもようやく落ち着きを見せ、これまでオンラインでの開催であった事業についても、徐々にではありますが対面あるいはハイブリッド開催が増えて参りました。やはりお互いの顔を見て話ができることが、産学官連携、地域連携の第一歩かな、と改めて人と会う大切さを実感しているところです。本センターも、研究コンサルティング制度の導入や大分県産学官連携コーディネーター会議等の取組みにより共同研究・受託研究の受入実績は堅調に推移しており、また大学発ベンチャービジネスプランコンテストでも連続して優秀な成績を収めるなど人材育成の面でも着実に成果がでてきています。現在では、カーボンニュートラル、再生可能エネルギーに対する取組み、また、大学発スタートアップ創出プラットフォーム (PARKS) など、より活動が多様に、かつ広域に展開されるようになってきました。

教育と研究を活動の主体とする大学において、社会の要請、課題解決に応えることは、新しい学問や研究領域を生み出す好機でもあります。新しい組織では、皆様との連携をより深め、大分県の産学官連携をけん引する本学の拠点として発展してまいりたい所存です。今後とも大分大学の産学官連携活動および社会連携活動へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大分大学へのアクセス



- 大分まで/空路**
- 羽田空港 (1時間30分) → 大分空港
 - 大阪空港 (60分) → 大分空港
 - 大分空港 (連絡バス:約1時間) → 大分市内
- 大分まで/鉄道**
- 小倉駅 (1時間30分) → 大分駅
- 大学(巨野原キャンパス)まで/鉄道**
- 大分駅・JR豊肥本線 (15分) → 大分大学前駅
 - (徒歩10分) → 大分大学産学官連携推進センター

- 大分大学(巨野原キャンパス)まで/大分バス**
- のりば**
- 「大分駅前3番のりば」または「大分駅前4番のりば」
 - もしくは「中央通りトキハ前1番のりば」
- 乗車バス**
- 「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行き (40分)
 - 「大分大学正門」または「大分大学(構内)」下車 (徒歩10分)
 - 大分大学研究マネジメント機構 産学官連携推進センター
 - 「戸次」「臼杵」「佐伯」行き (40分)
 - 「大分大学入口」下車 (徒歩10分)
 - 大分大学研究マネジメント機構 産学官連携推進センター

〒870-1192 大分県大分市大字巨野原 700 番地 大分大学研究マネジメント機構 産学官連携推進センター

大分大学 産学官連携関係の連絡先

〒870-1192 大分県大分市大字巨野原 700 番地

	TEL	E-mail
産学官連携コーディネーター	097-554-7969	coordinator@oita-u.ac.jp
産学官連携関係(産学連携課)	097-554-8533/7430	tiren@oita-u.ac.jp
共同・受託研究関係(産学連携課)	097-554-7423/7441	gaibushikin@oita-u.ac.jp
知的財産関係(産学連携課)	097-554-8517	chizai@oita-u.ac.jp

大分大学研究マネジメント機構 産学官連携推進センター



ホームページ
<https://www.ico.oita-u.ac.jp>



公式 Facebook
facebook.com/icooita